

# 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日 令和1年12月26日

法人名	園名
社会福祉法人 愛の泉福祉会	愛の泉こどもの園

まとめ	全体平均	4.08
-----	------	------

第2章第2節 乳児期の園児の保育	乳児は、その発達に合わせた遊具での遊びや食事、保育者との関わりの中で安心してのびのびと過ごしている。日々の生活の中で様々な物事への興味・関心が広がってきており、喃語や指差しで周りの人とのやり取りを楽しむ姿も見られている。保育者も乳児が持っている興味と一緒に共有したり、気持ちに寄り添ったりしながら言葉かけを行い、関わりを深めていくことを大切にしていきたい。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	園での遊びや保育教諭や友達との関わりを通して、様々な物事に興味を持ち自分から触れようとする様子や他者の真似押ししながらごっこ遊びをする様子が見られるなど、子どもたちはのびのびと安定して過ごしている。今後は、より子どもたちとぬくもりのある雰囲気の中で関わりを深めていくために、あたたかな言葉の声かけや保育教諭同士もやわらかな言葉での会話することなどを心がけていきたい。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	子ども達は、友達や担任達との関わりの中で思いや考えを自分なりの言葉や動作などで安心して表している。各年齢や発達によって様子に違いはあるものの遊びを通して様々な物事に興味を持ちながら友達との関わりも深めている。しかし、保育教諭が子どもの興味関心に目を向けながらそれを子ども自ら継続したり発展したりできるような環境や言葉かけをすることなどがまだ十分でなく今後の課題である。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	朝の受け入れ時の様子や朝の視診での気づきなどは、担当の保育教諭がしっかりと把握するよう努めている。乳児クラスでは、基本的な信頼関係が形成されていく時期を踏まえ保育教諭が共感的に乳児の欲求にもっと応えていく必要があると考えている。以上児クラスでは子どもの意欲を引き出すような環境や保育教諭の見守りをもっと大切にしていこうと考えている。
第3章 健康及び安全	感染症拡大の防止についての便りを看護師が作成する、食物アレルギーの園児については医師の判断を元に管理栄養士が食材を一つ一つ確認するなど専門的な知識を持つ職員と保育教諭が連携を図りながら日々園児の健康と安全に留意している。火災時の避難訓練についてはよく行っているものの不審者がきた際の訓練や水害、地震の避難訓練が少ないため今後はしっかりと取り組んでいきたい。
第4章 子育ての支援	園児の保護者に対しては、できるだけ子どもの日々の様子を様々なツールを用いて伝え、安心して利用できるように配慮している。保護者が育児に不安を抱えている場合や個別の配慮が必要な場合などにはじっくりと話を聞いたり情報を提供したりすることができるよう努めている。地域との繋がりが少し弱いためこれか
第5章 職員の資質向上	園内研修、外部の研修に参加し、様々な分野の専門的な知識を持った講師から保育について学ぶ時間は大切な時間であると考えている。研修に参加した職員が学びやその学びの実践等について共有する時間を持つことができると園全体の質の向上に繋がっていくのではないだろうか。
総合	認定こども園として、園児の安全や健康を守るとはもちろん、保育教諭や友達との暖かな関わりの中で、信頼関係を築き安定して過ごすことができるようにしていくことが大切であると考えている。各年齢の子どもたちの自分なりの表現をしっかりと受け止めながら、環境の設定や言葉かけなどに配慮し自主性を育てていくことができるようこれからも心がけていく。今後は、自己評価の反省を踏まえより良い保育に繋がっていくことができるよう努めていきたい。

データ表		
内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.27
「3歳未満児保育」	26	4.00
「3歳以上児保育」	53	4.13
「教育保育の配慮事項」	16	4.19
「健康・安全」	29	4.03
「子育ての支援」	17	4.00
「職員の資質向上」	9	3.89
計	165	4.08

### データグラフ

「乳児保育」	4.27
「3歳未満児保育」	4.00
「3歳以上児保育」	4.13
「教育保育の配慮事項」	4.19
「健康・安全」	4.03
「子育ての支援」	4.00
「職員の資質向上」	3.89